

音楽とは横への感性なり!

ウィーン岐阜合唱団ホームページアドレス
<https://www.wiengifu.org>

3月

2024年3月1日
編集・発行
ウィーン岐阜合唱団

あれからシリーズ第4弾 「潜伏合唱団あれから4年経ったのですね」



副団長 垣見育男

はじめに

19年12月COVID19が中国で確認されてから約4年。東濃地方の合唱団でクラスターが発生。「この非常事態になにをやっているんだ。」という文脈で大きくメディアが煽り、分断を皆が選択する。団員から1名感染者が出て、「そこまでやるか。」と思う基準で練習を共にした多くの団員が濃厚接触者と判定され、指定検査場所に出頭し、車の窓から顔を出し鼻から綿棒をつこまれた。痛かった。幸い全員陰性。されど小生は10日間の在宅勤務とパソコン会議。団にとってそれからが辛かった。潜伏キリシタンならぬ**潜伏合唱団**の4年間。しかし我々の歌への想いや団員の連帯感
は強かった。

第一章 潜伏合唱団

22年冬 長崎に行った。長崎はその日だけ雪だった。**潜伏キリシタン**のことを外海地区大野教会堂を訪ねた時に地区の管理者の方から伺った。潜伏250年間の歴史と**世界遺産**に登録された教会の維持管理の苦勞をお聞きした。「地区の住民数名で管理しているが、雨戸の補修も申請が必要で、簡単にできないんですよ。」妻が泣き、私はギリギリ耐えた。私にとって合唱を続けることは潜伏キリシタンのような日々であったかもしれない。感染し命が危ないという危機感よりこの時期に集い声を出す行動に対しての周囲から視線に怯え、団員であること、練習を続けていることを周りに隠している自分がいた。まさに「潜伏」。その思いからの自立は合唱団ニュース23年3月号を最後とした**あれからシリーズ3部作**の第二部に書きました。ご一読ください。

第二章 「継続は力」なり。されど「継続には力がある。」

320年前の**忠臣蔵**事件では、2年間の潜伏を経て12月14日の討ち入り時は47名+1名が参加。

お家断絶時の播州赤穂浅野家家臣団は約250名。約20%が吉良邸へ。

ウィーン岐阜合唱団は4年間の潜伏を経て、約70%が登壇。

「討ち入りはそんな簡単なものではない。背負っているものが違う。」というお考えや、「合唱は趣味なんだか、辞めてまた始めればよい。」などのご意見もあるでしょうが、結果として3倍以上の70%が残った。^ら

・継続は力なり

4年間の継続で、個々の音量、音域という広さだけでなく、**横への感性という深さ**も増したと思いたい。個人的には、**横とのつながり**が増し、顔と名前がつながった。

・されど継続には力がある。

大石内蔵助ならぬ平光先生、そして臼井団長のリーダーシップと団員のメンバーシップが奇跡を起こした。

特に我が団の**スーパーのいちは無敵**であった。ところで、忠臣蔵には垣見五郎兵衛という支援者がいましたが、私とは全く無縁です。わたくしはいまだ雇われの身。お休みや遅刻を繰り返しながら、そのくせ**周回遅れのトップランナ**のような顔をして続けた。ごめんなさい。

第三章 復活の24年

20年前にバチカン市国に行きました。サンピエトロ大聖堂に入っすぐ右にあるピエタ像を見ました。

横たわるキリストに比べやけに大きなマリア様。されど悲しげな顔が印象的でした。

24年上期に唄う曲は ♪スターバトマーテル♪ 意味は悲しみに立ち尽くす聖母

そして ♪アベルムコルプス♪ 意味はキリストへの感謝

夜一人で音量を下げ、暗くして聴きたい曲。和音を確かめながら歌いたい曲。歌詞の意味も知りたくなった。

今後の人類の新しい基礎になることを讃え、復活を信じる歌と私は理解した。

前頁より

さらに♪ハレルヤ♪

相手かまわず前に進む歌。「六甲おろし」のような歌 ハレルヤを歌うと聴衆が立つらしい。←

24年は悲惨な自然災害や事故で始まった。皆が元気で良い年になることを願いたい。←

第四章 どうする垣見

最近「学習する組織入門編」を読んだ。20年前に読みかけ玉砕した本の入門編。←

途中での挫折者人は私だけではなかったと自分を慰めています。←

目的や目標を問いながら、しなやかに進化し続ける組織になる。そのため個人、そして組織が自発的に学習し意識と能力を高める。高めるのは「志」「複雑性を理解する力」「創造的な対話力」 やっぱり難しい。←

横への感性を高めるため、少なくともぶつ切りの旋律にならないようアイコンタクトでカンニングプレスのタイミングをずらせるチームワーク力はついた。次はロングプレスができる個人の力をつけよう。腹筋をつければ声量だけでなく、穿けなくなったズボンが穿けるかもしれない。←

最後にご報告

皆様のご都合により「副団長」になりました。練習前に椅子を並べることはできませんが、椅子を片付けてから帰ります。もう空が明るくなってきました。もうすぐ春ですね。原稿を仕上げるためパソコンに潜伏した7日間が終わりました。←

クリスマスローズが咲きました。今からじゃがいもを植えます。←

私の第二の音楽人生

高山市より第九に参加
アルト

若井 智子

昨年末のウィーン岐阜合唱団の演奏会、以前高山での「千人の第九演奏会」でのご縁から、平光先生に声を掛けていただき、一緒に歌わせていただきました。先生のご指導はとても分かりやすく、またエネルギーで、音楽の世界に引き込まれていき、とても楽しく充実した時間でした。合唱団の皆様にも温かく接していただき、大変うれしく思いました。ありがとうございました。

私は35年間、小中学校の教員として歩んでまいりました。中学生の熱い思いがあふれる合唱、吹奏楽コンクールなどでの緊張した演奏、小学生のリコーダーアンサンブルの演奏など、子どもたちとともに音楽を奏でる日々は、とても濃く楽しいものでした。

4年前に少し早く退職し、「さあ第二の音楽人生を楽しもう」と思っていた矢先、コロナ禍での制限。自由に音楽活動ができなくなり、それまで当たり前だと思っていたことは、そうではなくとても貴重なことであると、今さらながら痛感しました。

それでも合唱団の活動は、度々中断しながらも細々と続け、以前からその音色に魅

了されていた二胡を習い始めました。さらには、学生の頃オーケストラのサークル活動で弾いていたヴァイオリンも、もう一度レッスンを受け、室内合奏団にも参加しました。自宅を改装し、ピアノや声楽の音楽教室も始めました。また昨年12月には、モーツァルトの命日追悼演奏会として、ウィーンのシュテファン大聖堂にて、今をときめく反田恭平さんの指揮でレクイエムを歌うという、大変貴重な機会に恵まれました。大聖堂に響き渡った歌声は、生涯忘れえぬ感動となりました。

勤めていた時にはできなかった様々な音楽の活動を貪欲に楽しむことができ、音楽と向き合えることに幸せを感じています。音楽を通して知り合えたたくさんの方々と、そして様々な経験や感動は、大きな大きな宝物です。

これからも音楽と真摯に向き合い、少しでも良い演奏ができるよう、努力を続けていきたいと思っています。そして、ウィーン岐阜合唱団の皆様ともまた一緒に演奏できることを楽しみにしております。本当にありがとうございました。

別冊 -1

(ご希望なら、ハレルヤ・アヴェ・ヴェルプ・コルプスも用意ありますが。)

スターバト・マーテル解説

スターバト・マーテル（ラテン語）13世紀のフランシスコ会で生まれたカトリック教の会の聖歌の1つである。詩の作者は明らかでなく、ヤコポーネ・ダ・トーディ、インノケンティウス3世、ボナヴェントズラらが候補としてあげられる。題名は最初1行（Stabat mater dolorosa, 悲しみの聖母は立ちぬ）からとられている。（インキピット）。日本語では（悲しみの聖母）と訳されている。

中世ヨーロッパの詩のなかでも極めて心を打つものの一つであり、わが子イエスが磔刑に処された際、十字架の傍らに立っていた母マリアが受けた悲しみを思う内容となっている。

（別訳）

イエス・キリストが十字架にかけられた時の母マリアの悲しみを歌ったラテン語の詩です。

息子が殺される母親の嘆きを描くなんて、悪趣味な詩に思えますが、実際には宗教的で格調高い韻文で、キリスト教聖歌の一つとして広く歌われています。

この詩には、数々の作曲家達も曲を付けています。例えば、ヴィヴァルディ・ハイドン・ポケリーニ・ラッシーニ・ヴェルディ・ドボルザークなど……。これら数多ある中でも「スターバト・マーテル」は最高傑作とされています。 夭折の天才・ジョヴァンニ・バッティスタ・ペルゴレージ（1710～1736）の作品です。

ソプラノ・アルトの二重唱に弦楽というシンプルな編成で、美しいメロディとハーモニーを響かせる30分ほどの音楽です。病弱であったベルゴージの最後の作品でもあり、広く親しまれております。

「発表当時、余りにも流麗さから宗教音楽とゆうよりオペラ・ブッフアのようなのだと」批判されたようです。それほど美しい曲であるということにほかありません」

「宗教音楽なんてワケの判らないもの、聞く気になれません」とおっしゃるような方でも、この一曲は素直に入っていけるのではないのでしょうか。

参考文献：佐藤今朝雄発行 宗教音楽対訳集成・ネットより

3月～5月 練習予定

準備が先 声は後

練習時間 開始 15分前迄には集まりましょう

平日 (18:30～20:30)		以外日曜日 PM14:00～PM16:00 第一日曜日 AM10:00～12:00
岐阜 (木曜日) 長森コミュニティセンター	大垣 (金曜日) 大垣市南地区センター	各務原 ウィーン岐阜ホール
———	3月 1日 大垣市南地区センター	3月 3日 AM10:00～12:00
3月 7日 長森コミセン	3月 8日 大垣市南地区センター	3月 10日 PM14:30～16:30
3月 14日 長森コミセン	3月 15日 大垣市南地区センター	3月 17日 PM14:30～16:30
3月 21日 長森コミセン	3月 22日 大垣市南地区センター	3月 24日 PM14:30～16:30
3月 28日 長森コミセン	3月 29日 大垣市南地区センター	3月 31日 合同練習
3月 31日 (日) 合同特別発声練習 長森コミセン 14:00～16:30		
4月 4日 長森コミセン	4月 5日 大垣市南地区センター	4月 7日 AM10～12:00
4月 11日 長森コミセン	4月 12日 大垣市南地区センター	4月 14日 PM14:30～16:30
4月 18日 長森コミセン	4月 19日 大垣市南地区センター	4月 21日 PM14:30～16:30
4月 25日 長森コミセン	4月 26日 大垣市南地区センター	4月 28日 PM14:30～16:30
5月 9日 長森コミセン	5月 10日 大垣市南地区センター	5月 12日 PM14:30～16:30
5月 16日 長森コミセン	5月 17日 大垣市南地区センター	5月 19日 PM14:30～16:30
5月 23日 長森コミセン	5月 24日 大垣市南地区センター	5月 26日 休み
5月 30日 (木) 合同練習 長森コミセン 18:30～20:30		
6月 1～2日 (土・日) 合宿 コージュ高鷲		

(大垣 インспекター) 山田秀子さんが令和5年度
清流の国岐阜・おすすめの1冊コンクール紹介文部門において
「銅賞」を受章されました。

「おすすめしたい本」『言志四録』
佐藤一斎 / 著 川上正光 / 全訳注
「心がざわついたとき、ビタミンとなる本」

岐阜県図書館のホームページ

<https://www.library.pref.gifu.lg.jp/info-events/2023/12/5-11.html>
上記県図書館のホームページに掲載されております。是非御覧下さい。

※合唱団新聞に関しましては、下記の広報委員までご連絡ください。

高橋なお子 E-mail: wien.chorus2021@gmail.com
携帯: 090-9933-0374 FAX: 058-294-6114

白木 政春 E-mail: printshiraki@yahoo.co.jp
携帯: 090-9924-6137 FAX: 058-231-4721

新聞に関しましては、ホームページにカラーで掲載しております